

よろず相談所《たんよう》は いつもお客様のそばに……

平素は、当金庫に対しまして何かとお心寄せを賜り、厚くお礼申し上げます。

このたび、安心してお取引をいただくために、2021年9月期決算や経営内容の一端について「半期REPORT2021」としてまとめさせていただきます。

お目通しいただき、《たんよう》のより一層のご理解と引き続きのご支援、ご愛顧をよろしくお願い申し上げます。

但陽信用金庫と地域の絆

当金庫は、大正15年に但馬(朝来市生野町)にて創業。山陽地域にご縁を拡げ、昭和63年5月、東播磨の加古川市に本店を移転。南但馬を含めた兵庫県中南部を事業区域に、地域の中小企業者や住民による会員組織の金融機関として、相互扶助による「地域の発展」「豊かな暮らしの実現」を共通の理念としています。

地域のお客様からお預かりした大切な預金は、地域で資金を必要とされるお客様にご利用いただき、事業や生活の繁栄のお手伝いをするとともに、地域社会の一員として地域の中小企業者や住民の皆様との強い絆とネットワークを形成し、地域経済の持続的発展に努めています。

また、金融サービス機能の提供にとどまらず、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標でもある「地域創生」への参画や文化・環境・福祉・教育・観光といった面も視野に、広く地域社会の活性化に積極的に取り組んでいます。

地域貢献・地域活性化支援に関する取組状況

～ボランティアを始めて26年～

■「NPO法人 但陽ボランティアセンター」への人員派遣など 継続して取り組んでいる活動



当金庫は、阪神淡路大震災以降、26年間、ボランティア活動を継続しています。2000年1月以後は、ボランティアを目的に設立した「NPO法人 但陽ボランティアセンター」に、金庫から毎日数名の職員を派遣する形で、車いすを利用されている方々へのリフト付福祉車両による「移送サービス」等の支援活動を続けています。

そのほか、

- ・独居高齢者宅(約2,300軒)へのケア訪問
 - ・職員向け「認知症サポーター養成講座」の開催、啓蒙活動への協力
 - ・全店舗ATMコーナーへのAED配備と職員向け「普通救命講習」の継続開催
 - ・「子ども110番の店」への登録
 - ・献血活動への協力、骨髄バンクドナー登録会への協力
- などの活動を継続しています。

■地域における地方創生事業への参画

当金庫は、次のような新たな事業の創造支援等を通じて、地域の活性化や雇用の創出に向け、地方創生事業への参画に積極的に取り組んでいます。



笠形オーガニックファーマーズプロジェクト(市川町)

市川町上牛尾地区では、平成28年度より有機農業を通して新規就農を目的とした移住・定住者を呼び込み、収穫物のブランド化や販路拡大により、地域の活性化を図る取組みを行っています。

本プロジェクトは、設立から5年が経過し、野菜の収穫・販売の安定化が図れ、地域内外で笠形ブランド野菜の認知度が高まっています。

当金庫は設立時からプロジェクトの役員として参画しており、引き続き持続可能な事業の確立に向け、積極的に支援していきます。



「かわまちづくり」を応援しています(加古川市)

加古川市は若い世代の人口減少対策として、JR加古川駅周辺や加古川河川敷を「潤い」と「憩い」と「にぎわい」などがあふれ、魅力を感じる都市空間として創造する「かわまちづくり」に取り組んでいます。

当金庫は周辺商業者の活性化につながることから、ワークショップに参加し駅周辺からのまちづくりについて意見交換を行うなど、積極的に関与しています。

